TSIホールディングス

医療用ガウン生産開始

政府要請で100万着を

TSIホールディングスは医療用ガウンの生産を開始する。感染症防護として幅広く利用でき、主に手術以外の施術や簡易な処置、面会者や患者向けなどに使用する使い捨てガウン。政府の要請で、9月までに約100万着を生産する。

生産は子会社のTSIソーイングの米沢工場と宮崎工場が担う。両工場は4月から、地元の地方公共団体への無償提供や優先し、医療機関などへグループ社員の福利厚生を目的にマスク生産を開始していた。医療従事者向けガウン生産は今回が初めて。

ポリエステル撥水（はっすい）織物、不織布防水フィルム素材を使って2種類の医療用ガウンを製造する。生地調達は国内メーカー、商社でメード・イン・ジャパンの生産体制。政府への納品を優先し、医療機関などへの個別販売は現時点で予定していない。

TSIホールディングスは「事業活動を通じて、あらゆるステークホルダーとともに持続可能な未来社会を築いていく」という同社CSR基本方針にのっとり、取り組んでいくと言う。

要請した経済産業省は「医療用ガウンが不足しており、縫製工場に声を掛けた。他にも原料調達に商社を絡ませて調整中。厚生労働省の買い取り予算を通じて行っている。今後は生産品を医療現場にどう届けるか。ゴロナ後も病院はガウンの備蓄を行うので、中期的に生産は必要になる」と話す。